

漁業の視点から考える香川県直島町の持続可能性

岡山県立玉野高等学校 2年 菊地梨有来

1 研究目的

香川県直島町は、昭和8年（1933）から開始されたハマチ養殖で知られる海面養殖業が盛んな町である。昭和40年（1965）からはノリ養殖も開始された。現在は、漁船漁業、魚類養殖、ノリ養殖を組み合わせた漁業が行われており、中でも、海面養殖業収穫量は香川県全体の約2割を占め、県下最大を誇る。本研究では、直島町における海面養殖業の現状と課題とを明らかにし、町の持続可能性について考察することを目的とする。

2 研究対象地域

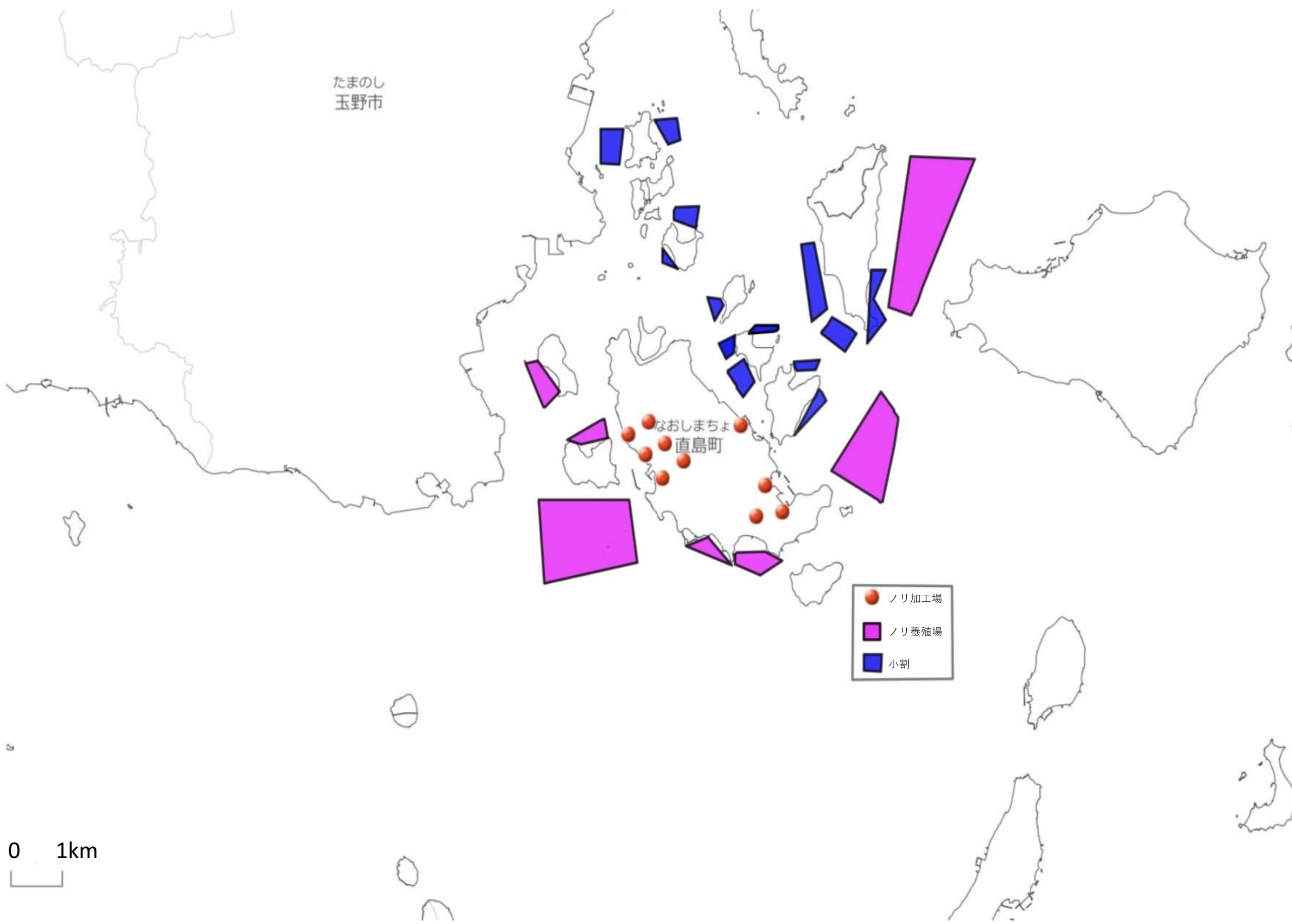


図1 香川県直島町における養殖場及びノリ加工場の分布
(直島漁業協同組合資料を基に「地理院地図」を使用して筆者作成)

3 研究方法

令和3年（2021）8月、直島漁業協同組合でヒアリングを行い、海面養殖（ノリ、ハマチ）に関する資料を収集した。

4 ノリの生産工程

直島町 ①系状体培養②採苗③育苗④網展開、冷凍網⑤摘採⑥加工（攪拌タンク⇒水洗い⇒異物除去機【前処理】⇒ミンチ⇒濃度調整⇒抄き⇒脱水⇒乾燥⇒異物除去機【後処理】⇒折り曲げ⇒結束）

高松市 検査場で検査を実施



図2 ノリの網
(直島漁業協同組合撮影)



図3 ノリ加工の様子
(直島漁業協同組合撮影)



図4 摘採の様子①
(直島漁業協同組合撮影)



図5 摘採の様子②
(直島漁業協同組合撮影)

5 調査結果

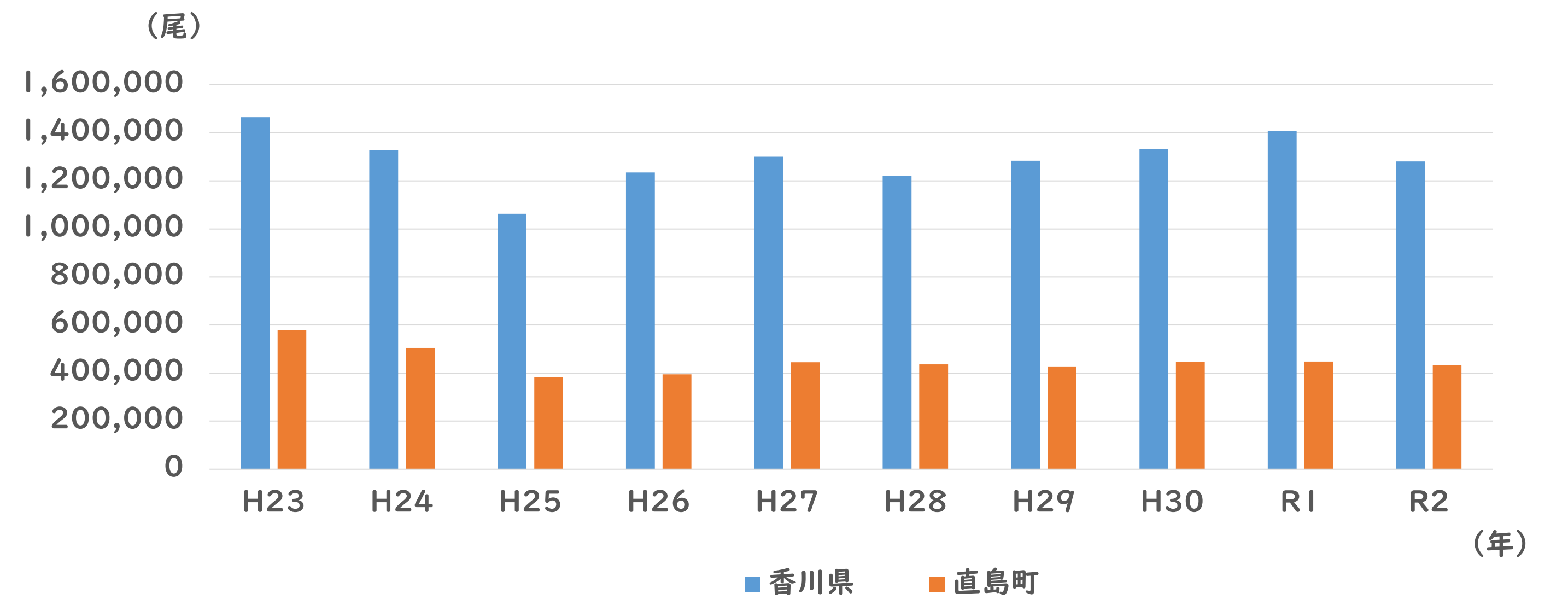


図6 ハマチの生産尾数（香川県全体及び直島町）
(直島漁業協同組合資料により筆者作成)

ハマチの生産尾数について、直近10年間の推移をみると、直島町では、平成23年（2011）からの3年間は減少傾向にあったが、その後は40万尾台で推移しており、香川県全体のおよそ4分の1を占めている。



図7 ハマチのいけす
(直島漁業協同組合撮影)



図8 ハマチの餌やりの様子
(直島漁業協同組合撮影)

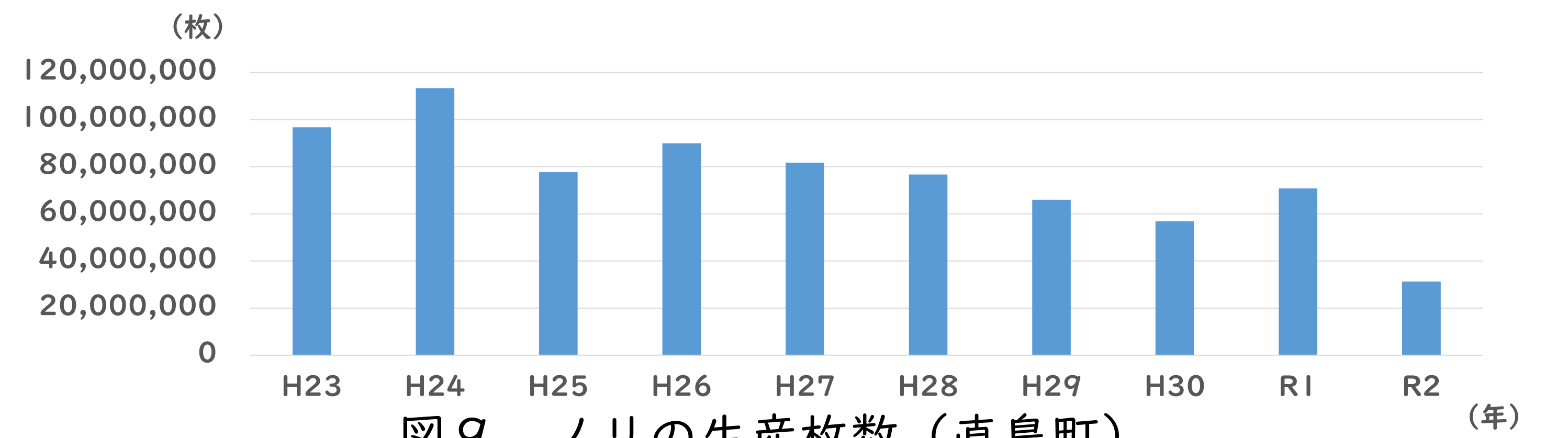


図9 ノリの生産枚数（直島町）
(直島漁業協同組合資料により筆者作成)

直島町のノリの生産枚数について、直近10年間の推移をみると、平成24年（2012）をピークに減少傾向にある。特に、令和2年（2020）は、著しく減少しているが、このことについて、直島漁業協同組合は、台風がなく降雨も少なかったため、栄養塩が少なく、正月明けに色落ちしてしまったことから早い漁期終了となったことが要因であると説明している。

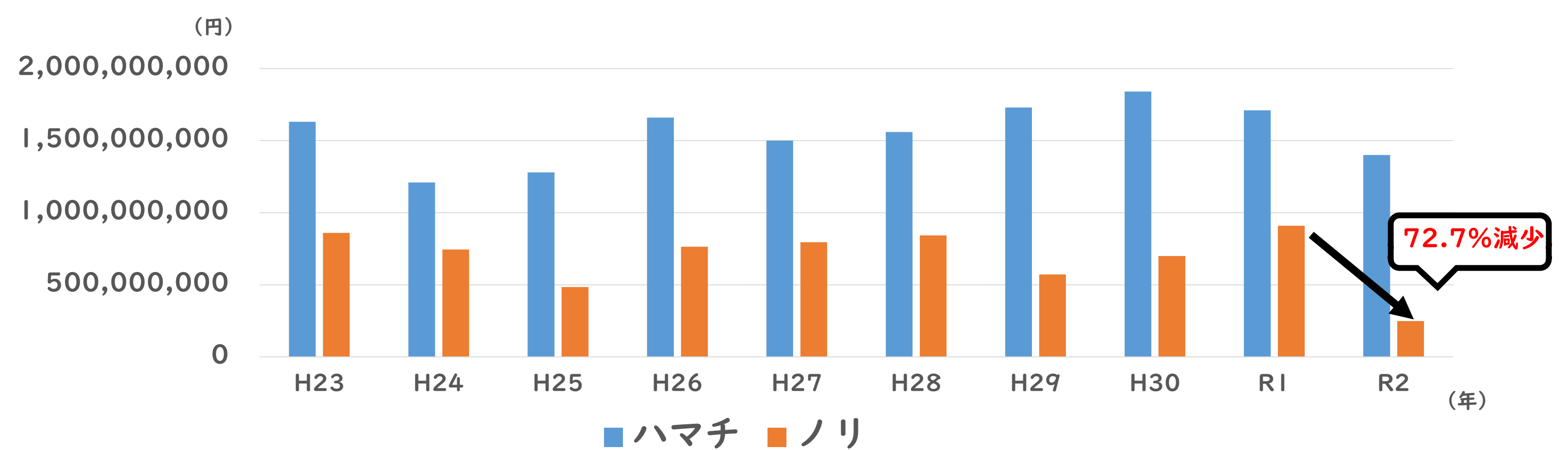


図10 ハマチとノリの生産金額（直島町）
(直島漁業協同組合資料により筆者作成)

6 直島町の漁業の課題

赤潮防止のための水質改善は、ハマチ養殖にとっては有効であるが、ノリ養殖の面から考えると、栄養塩の濃度低下はノリの色落ちにつながる。ハマチとノリの養殖の両立は、直島町の漁業にとって大きな課題であり、瀬戸内海の環境保全のあり方とともに町の持続可能性を探る鍵にもなっている。

7 参考文献

北川博史2011. 離島における漁業活動の構造変化—香川県直島を事例として—. 文化共生学研究（岡山大学大学院文化科学研究科）10：75-84.
海苔で健康推進委員会編2009. 『海苔の基礎知識』海苔で健康推進委員会通信海苔PRESS増刊号：32.

8. 謝辞

直島漁業協同組合の菊地誠一様にはヒアリングや資料収集に際し、大変お世話になりました。ここに記してお礼申し上げます。